

「立屋・番所の桜を愛する会」の年間活動

案内



開花時には延べ数千人の観桜客が訪れるため、案内役などを務める。

草刈



病虫害から桜を護るため、年2~3回は桜山一帯の草刈をする。

消毒



野鳥と病虫害から桜を守るため、冬季間に2回、硫黄合剤を散布する。

接木
剪定



鈴木さんは「立屋の桜」の実生の台木にベニシダレザクラを接木し、桜山の桜を育てている。

立屋からアルプスを望む



小川村は「にほんの里100選」に選定され、「日本で最も美しい村連合」にも加盟しています。



立屋・番所の桜を愛する会事務局

〒381-3303 長野県上水内郡小川村小根山8000-4
森の宿林りん館内
Tel. 026-269-3455 Fax. 026-269-3470

信州・小川村の桜

樹齢三〇〇余年
エドヒガンザクラ

立屋の桜

御前の美しさ
ベニシダレザクラ

番所の桜



悠久のときを刻む桜の里

番所の桜

鈴木家の近くにあるベニシダレザクラは樹齢およそ六〇年といわれています。

鈴木家一〇代当主守雄氏は立屋の桜の実生の台木に接木された桜を育て、この地に植栽。やがて色濃いベニシダレザクラとして成長し美しい花を咲かせるようになりました。以後守雄氏はこの木を丹念に育て上げるとともに、長寿である立屋の桜の実生の苗木を台木にしてこのベニシダレザクラを接木し、長年かけて七〇本余を植栽してきました。

今日開花時には桜山は紅色に染まり、鹿島槍ヶ岳を中心とした北アルプスの山々に映え、全国から多くの人たちが訪れるようになります。

この功勞を称えられ、守雄氏は二〇〇六平成十八年に(財)日本さくらの会より顕彰されました。

立屋



立屋の桜

鈴木家の墓地にあるエドヒガンザクラは樹齢三〇〇年以上と伝えられています。立屋番所初代鈴木八右衛門は一六八二(天和元年)に没しました。当時の慣わしとして鎮魂と真夏の暑さ除けのために桜が植栽されたといわれていますので、この桜も同様、墓守りの桜として植えられたのではないかと考えられています。

一九七九(昭和五四)年に小川村天然記念物に指定。高さ十五メートル、目通り三・六メートル。



立屋口留番所跡

松代藩主真田信之は「人改め」と「物資改め」のため藩内20箇所に口留番所を設置しました。当時立屋は、善光寺に通じる大町峰街道と戸隠～麻績宿を結ぶ道が交差する要衝の地であり、1649(慶安2)年、椿峰村に立屋口留番所が設けられました。

番役人として、松代藩家老・鈴木右近の子、八右衛門が派遣され、以降7代目八右衛門まで続きました。1872(明治5)年、番所制度が廃止されましたが、今もなおその面影を残しています。



桜を守り続けてきた鈴木守雄・雪江夫妻



鹿島槍ヶ岳を望む